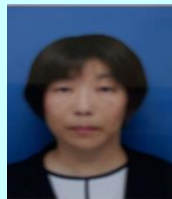


ぎぼろ

第35号

編集発行

静岡県立吉原高等学校
PTA 振学広報委員会



PTA会長
図司 裕子

この言葉から想像する、「愉しむ」とは？

私達の幼き頃学生時代にわかないところがあれば、すぐに大人に聞くということがあったり、自分の力で調べることをしてきました。その頃を思い出すと、私は親に「辞書で意味や漢字の成り立ちを調べなさい」と言われたものでした。久しぶりに私も息子の机から、国語辞典を取り出し調べてみました。常に使う「愉しむ」とはどんな違いがあるのか？

愉しむとは・・・自分自身の気持ち、思いから感じ、生まれる楽しい状態。楽しむとは・・・与えられたこと（物理的に）に対して楽しく過ごすこと。自分自身の考え方で、いくらでも変わるということです。

我が子にとって、吉原高校という新しい生活の中、先生方、友達との出会いにより、ずいぶん精神的に鍛えられたのでは

と思います。小・中学校までの甘えていた部分とは異なり、自分の力で進んでいく、道を切り開いていく成長段階だと感じています。

今年の高楼祭には多くの保護者の方、地域の方、中学生にも参加していたきました。文化祭、体育祭などの大きな行事を通して、子供達の生き生きとした姿や、自然に生まれてきた表情を見られたことは「愉しい」学校生活を歩んでこられてきたのではないかと親として大変嬉しく思いました。安心して自分らしくいられる最高の場ですね。

また、今回の高楼祭に参加する中で、PTA活動の必要性も改めて感じました。

私達は日々、時間に追われがちではありますが、ふとした瞬間に「愉しむ」心を持つことで普段の何気ない出来事も豊かな経験となります。子供達に対しての関わりにも変化が見られ、優しい眼差しを向けることができると思います。これからの日々、少しの「愉しみ」を見つけて過ごせたら最高ですね。



PTA副会長
松浦麻衣子

私がPTA副会長なんて、出来るわけがない、不安しかなく始まった三年前です。まだコロナの制限もあり、PTA活動も学校行事も思うように出来ない中でした。コロナ過でPTAの活動も大きく変わったと思います。息子が二年生になって、やっとコロナも落ち着き、コロナで制限されていた事がちよつとづつ緩和されて、いろいろな行事も再開されるようになりました。修学旅行にも無事に行く事が出来、マスクなしの写真も何年ぶりか

にみたように思います。高楼祭では、部活をや

りながらの準備でとても大変だったと思いますが、頑張っている姿を見ました。今年は制限もなく多くの人達が来てくれました。どこのクラスも盛り上がっていました。私も参加させていただき楽しませていただきました。

生徒の皆さんもきっと「愉しむ」事が出来たと見ていて思いました。体育祭もみんなが、一生懸命取り組み、頑張っている姿を見て感動しました。

PTAの活動も、コロナ過で活動がなくなりましたが、少しずつ何かの形で活動の場が増やせたらと思います。一緒に「愉しむ」事が出来たらと願います。

私事ではありますが、部活動も制限された時もありましたが、三年間の部活動をみんなの頑張りでいい結果で終わる事が出来ました。最終は悔いなく終わり、一、二年生にバトンタッチが出来たんじゃないかと思っています。最後にありますが、PTA役員として不慣れの部分も多々あったと思いますが、私自身勉強させて頂きました。これからPTA活動にご協力をお願いします。

学びの愉しみ



校長
藤村 寿一

ある教育講演で、「分かった↓できた↓愉しい」という話がありました。愉しいとしたのは「愉」は「気になることを抜き取り、心が晴れ晴れとしていること」を表すからだそうです。「分かった！できた！」ときはまさにこの気持ちでしょう。このことを聞いたとき、私は自身の大学時代のことを思い出しました。大学一年生の秋、私はある講義の内容が理解できず、何週間も悶々と過ごしていました。そんなある日の入浴中でした。考え事をしていると、突然「！」その内容と論理がつながった、理解できたのです。それはババラだったジグソーパズルが次々と組み合わせられていくようにでした。私はお風呂から飛び出し、びしょ濡れのまま机に紙を出し、服も着ずに頭にあることをひたすら書きました。まさに「分かった↓できた↓愉しい」と感じた瞬間でした。この経験は、その後の大学での勉強、そして高校教員としての授業にも生かされました。学びの「愉しみ」とは、単に面白おかしいことではありません。そこには「分かった↓できた」という過程があり、同時に学習者の「主体的」な取組があつてのものです。吉原高校でも、お子様たちの「主体的」な取組を引出し、「分かった↓できた↓愉しい」授業づくりに努めてまいります。

ちなみに、私がびしょ濡れのまま机に向かっていたら、玄関のドアを開けて入ってきたのは、悪友Aでした。私の姿を見て唖然としていました。が、「分かったんだよ！」「何だと？教えるよ」と付き合ってくれました。Aは卒業後大学の研究者となり、この四月から県内の大学に着任し、教鞭をとっています。私にとっては学びの「愉しみ」を分かち合える友との再会であり、心強い存在です。



副校長
佐田 恵子

今年度着任いたしました、副校長の佐田です。初めて出勤した日、正門から見える校舎、富士山のバランスの美しさに大きく心を動かされ、とても幸せな気持ちに包まれました。以来毎日、気象や季節の変化ごとに、その景色を「愉しんで」います。早いもので季節は春夏秋冬と過ぎ、冬を迎えました。

さて、学校では現行学習指導要領が指す「主体的・対話的で深い学び」を柱とした教育活動を展開しています。授業はもちろん、特別活動や部活動等、さまざまな場面で「対話」が重視され、「社会につながる学び」を実践しています。そこでは、時には自己と他者の考えが大きく異なることもあるでしょう。でも、意見の対立も「愉しんで」ほしいと思っています。

一人では、何となく分かっていったものが、対話を通してだんだん明確な理解に変化し、深い学びにつながる。「愉しむ」には、「楽しむ」と異なり、その気持ちや考え方が、主体的なイメージがあり、主体的なイメージがあります。本校の目指す「主体的に伸びていく生徒」として、とても深い意味のある言葉だと思つてます。「楽しむ」は時間が経つにつれ薄れてしまいう体験ですが、「愉しむ」ことは、これからの変化の激しい社会をいきていく上でも、大きな自信や糧になることでしよう。

最後になりますが、教職員一同、保護者の皆様と共に子どもたちの成長を支え、一人一人が高校生活を心から「愉しめる」ような学校づくりに努めてまいります。今後ともよろしく願いいたします。



教頭
武田 孝之

子どもたちの学びや成長の過程において「愉しむ」ことは重要な要素の一つです。学校生活や家庭での時間を通じて、子どもたちが心から愉しんで学び、活動に取り組む姿勢は、将来の豊かな人生を築く基盤となります。私たち教員は、日々の授業や活動の中で、子どもたちが「愉しむ」ことの大切さを伝えようと努めています。学習においても、ただ知識を詰め込むのではなく、その過程を楽しむながら学ぶことで、より深い理解や創造的な発想が生まれます。好奇心を持ち、自ら進んで取り組む姿勢は、子どもたちにとって学びを「愉しむ」源になります。しかし、これは学校だけでなく、家庭生活においても、日々の生活の中で「愉しむ」ことを共有することが、子どもたちの成長にとって重要です。例えば、家庭での会話や一緒に取り組む活動を通じて、子どもたちが愉しめる環境を作ることが、子どもたちの意欲や自信を育むことにつながります。



で取り組む姿勢は、子どもたちにとって学びを「愉しむ」源になります。しかし、これは学校だけでなく、家庭生活においても、日々の生活の中で「愉しむ」ことを共有することが、子どもたちの成長にとって重要です。例えば、家庭での会話や一緒に取り組む活動を通じて、子どもたちが愉しめる環境を作ることが、子どもたちの意欲や自信を育むことにつながります。

令和六年度
高樓祭



文化の部



☆。.:*:・”° ★。.:*:・”° 各クラス・部活の特色ある出店 部活対抗リレーやザ・タイフーンアイズなど迫力ある競技 ☆。.:*:・”° ★。.:*:・”°



体育の部



専門委員会の紹介

学校行事委員会

鈴木智子

昨年度まで活動しておりました、高樓祭委員会、保健委員会、体育文化委員会が一つになり、学校行事委員会として本年度より活動が始まりました。

活動内容は、六月に行われる高樓祭の受付、校内巡回と、二月に行われる長距離走大会の走路支援となります。

本年度は、コロナ後初めて二、三年生の高樓祭り委員、保健委員と一年生の学校行事委員に選出された保護者の皆さまにお手伝いをお願いしました。高樓祭は、委員の方のご協力により、無事に終える事が出来ました。

今後も各行事が安全かつ円滑に運営が出来るようにサポートをしていきたいと思っております。PTA活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

学年委員会

池田雅子

学年委員会の主な活動は、「新一年生保護者対象地区会」の運営です。お子さんの入学が決まった後、初めて関わる行事です。各地区の評議員さんと連携をとり円滑なPTA活動ができるよう、役員の選出や連絡網づくりなどのとりまとめを担当しています。委員会で活動は一人ではなく、皆で話し合い協力しながらすすめていきます。入学が決まった後、最初のPTA活動なので、高校入学という環境の変化にお子様はもちろん親御様にも安心して吉原高校に入学してもらえよう活動していきたいと思います。活動の際にはご参加・ご協力の程宜しくお願いいたします。

振学広報委員会

渡邊朱理

振学広報委員会の主な活動は、PTAだより『きぼう』の発行が中心となります。

今年は、五月に一年生保護者の委員の方にご参加いただき、原稿依頼の宛名書きをしていただきました。

従来ですと、九月に構成を確認する作業を行っていたのですが、新たな試みとしてデータでの新聞作成を行いました。

高樓祭において生徒達の作品や演奏、体育の部での決闘とした姿を掲載することができ、大変嬉しく思います。

皆様のご協力の元、無事に発行出来たことお礼申し上げます。

執行部

富士地区高等学校 PTA 指導者研修会

九月二十日、富士市文化会館(ロゼシアター)にて開催されました。

今年度は富士宮西高校、吉原工業高校の発表があり、PTA活動の内容・学校紹介などの特色を生かした発表の後、質疑応答では、各校の参加者との意見交換が行われました。

また、静岡大学名誉教授の熊倉啓之氏による、「これからのAI時代における数学を学ぶ意味は？」と題した講演が行われました。

数学の学びを通して育成したい資質・能力そして数学の魅力についてユーモアを交えながらお話されました。時代の変化と共に他人と比べられる財から、自分の中で昇華させる財に価値観が変わったというお話にもハッとすると同時に感動がどと納得する大変興味深い講話だったと思います。

編集後記

新聞を発行するにあたり、多くの皆様にご協力を頂きありがとうございます。

又、原稿をお寄せ頂いた皆様、写真を提供してくださった皆様、編集にご尽力頂きました役員の皆様、そして委員会活動を支えて下さいました先生方に、心より感謝申し上げます。

世の中の変化にも対応すべく、今年のPTAだよりは、学校のHPにも掲載して貰えるようにデータでの作成を行いました。PTAの組織改正もあり、PTA運営について転換期を迎えているのを感じました。

最終的には、無事にPTAだよりを発行できました。した事を嬉しく思っております。



振学広報委員長 渡邊 朱理
副委員長 木島 和美
副委員長 宮本 祐己子